

**GUNBOH****群****萌**

第196号 2019年1月30日

発行所 全国化学労働組合総連合

〒105-0021 東京都港区東新橋2-16-1

ルーシビル402

TEL 03 (6452) 8806

FAX 03 (6452) 8807

発行責任者 寺前 敦司

編集者 化学総連事務局

gs03@kagaku-s.com



～平成の30年を振り返ると～

全国化学労働組合総連合 会長 寺前 敦司

新年明けましておめでとうございます。日頃より化学総連の諸活動に対して力強いご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。2019年が皆様にとって、安全で幸多き年となることを心よりお祈り申し上げます。

皆様もご存じの通り、2019年の4月30日をもって平成が終わりを迎えます。そこで、この30年間の歩みを振り返る特集を見聞きすることが多くなりました。国内外で度々発生した大きな自然災害、世界各地での戦争・紛争やテロ事件、ベルリンの壁崩壊に代表される東西冷戦の終結、バブル崩壊やリーマンショックといった経済危機など、歴史の転換点となるような出来事が多く発生していたと改めて思い出されます。このような史実を目の当たりにしなかった世代はもちろん、身に染みて経験してきた世代においても、この節目を機に、我々が歩んできた歴史を再確認されてはいかがかと思います。

そんな歴史の振り返りを見ていてふと、30年前にあった今とはもう無くなった物や文化・習慣ってなんだろうと、考えてみました。レコードやカセットテープ、ブラウン管テレビやゲーム機器など家電製品は栄枯盛衰が早いので、その手のものは除外したとすると、一つは切符かなと思います。当時、首都圏ではまだ切符は紙で、駅員さんに切符に銚子を入れてもらって入場しました。そのため乗降客の多い駅では、切符の切り屑が花びらのごとく床に散乱していたものです。ちなみに退場するときは切符を手渡しするので、駅員さんは様々な乗車駅からの運賃を覚えていなくてはなりません。会社の職場からは、いやこれは公共の場からといってもいいかもしれませんが、灰皿が消えたと言っていいでしょう。昔の職場では煙草を吸いながら資料を作成したり、会議をしたりというのが当たり前の風景でした。それこそ電車でも飛行機でも病院の待合室でも、殆ど何処でも吸えたものでした。車を見てみると、雪の降る地域ではスパイクタイヤが使われていましたが、今は完全に淘汰され、スタッ

ドレスタイヤに置き換わっています。スパイクによる粉塵が問題となり日本では法規制がなされたため、非常に特殊な場合を除いて四輪で使用している場面を目にする機会はなくなりました。

その時は存在することが当然だと思っけても、気が付くと無くなってしまっているものって意外とあります。そんな時代の変化を上手に受け止めて、半歩先を歩けるようにしていきたいものです。ところで、今あるもので30年後には無いものって、なんでしょうね。スマホかなあ。

さて2019年は、米中の貿易摩擦の影響や、イギリスのEU離脱など不確実な課題を踏まえれば、やや減速することが見込まれるものの、世界経済は前年に引き続き緩やかに成長すると思われます。我が国においては、4月の新元号公表に始まり、5月は皇太子殿下の新天皇への即位、6月はG20の大阪開催、8月にはアフリカ開発会議が横浜で開かれ、9月から11月まではラグビーW杯の試合が日本各地で実施となり、10月には消費税が10%に上昇し、11月には新国立競技場が完成する見込みと、大きなイベントが目白押しで、多くの人にとって記憶に残る一年になるのではないかと今から期待する次第です。

化学総連は昨年9月に結成40周年を迎え、今年度は節目の年として、様々な企画を地方連絡会議を通じて実施していきます。その一つとして、最近話題となっている海洋プラスチックゴミに対応し、海岸や河川などでプラスチックゴミの清掃活動を各地で実施していく予定です。ご都合がつくようでしたらご参集いただければ存じます。

最後になりますが、化学総連の活動に従前に増してのご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

2019年度組織体制の紹介

化学総連は、真にプロフェッショナルな産別組織を目指すべく、2017年度より組織体制を見直し、役員全員が一丸となって産業政策活動に取り組んでいます。政策委員会の下に編成された4つの専門委員会・研究会および地方連絡会議は、現在の化学産業を取り巻く様々な政策的課題の解決に向けて、時代の先を見据えた活動を行っています。また、時代の要請に応じた様々な勉強会、施設見学、意見交換会などを積極的に行うことで化学総連の全体的なレベルアップに努めています。今号では4つの専門委員会・研究会および地方連絡会議について、2019年度の組織体制と活動内容を簡単にご紹介いたします。

環境安全委員会

環境安全委員会では、化学産業における事業運営の最重要課題である「安全」に取り組むとともに、化学物質管理や様々な環境保全活動について情報共有・提言活動を中心に活動をしています。

安全については、各単組のリーダーを対象とした勉強会をはじめ、安全担当者による情報交換や施設見学を行うほか、異業種企業等も訪問して工場見学や安全活動の情報交換を行うことで、安全知識のさらなる向上を図ります。また、業界団体(日化協や石化協など)や企業内労使での活発な議論ができる問題提起や情報提供を行います。

化学物質管理については、化審法や化管法のほか、国際的な化学物質管理規制に関する情報共有を行うとともに、化審法改正や化学物質のリスク評価などについて、より安全で安心できる化学産業を目指すべく、提言活動を展開していきます。

環境保全活動については、SDGs(持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals)や気候変動抑制に関するパリ協定などに先進的に取り組む事例の共有や、二酸化炭素排出量削減に向けた化学産業の取り組みについても情報共有を行います。

また、第2回安全アンケートを実施し、前回実施時からの経年変化を解析するとともに、その結果をもとに安全についての提言活動を行います。

環境安全委員会 メンバー



委員長：村松 厚(昭和電工ユニオン)中央左
副委員長：川島 浩之(DIC労組)中央右
委員：山本 寿一(デンカ労組)右
委員：藤村 渉史(三洋化成工業労組)左

エネルギー・税制委員会

エネルギー・税制委員会では、化学産業を取り巻く環境の中でも特に重要視されている、中・長期的課題である「エネルギー政策」「税制改正」に対して取り組んでいます。

業界団体(日化協、石化協)や経済産業省を中心とした関係省庁と連携をとりながら、現状の共有化や今後の動向把握、課題認識に努め、「化学産業の持続的・健全な発展を図り、社会に貢献し、魅力と誇りの持てる産業を目指し、化学産業に働く仲間の雇用と生活を守っていく」という従来からの基本的な考え方に沿った政策提言を行います。

税制への対応については、「石油化学製品製造向け原料に係る揮発油税、石油石炭税の本則非課税化」、「地球温暖化対策税の用途ならびに効果の説明」、「自動車エネルギー課税の不公平是正」を中心に取り組みます。

エネルギー政策については、化学産業は電力多消費産業としての立場から、省エネ、創エネ、再生エネといった次世代エネルギー政策はもちろんのこと、「電力のクリーン化と産業への利用」や化石燃料の有効活用や温室効果ガスへの対応にも取り組みます。

これらの税制やエネルギー政策を通して化学産業の持続的発展に寄与する活動に努めます。

エネルギー・税制委員会 メンバー



委員長：渡邊 雅美(JNC労組)中央左
副委員長：本多 正磨(丸善石油化学労組)中央右
委員：竹田 憲晃(日本板硝子労組)右
委員：瓜生 泰則(AGC労組)左

新しい働き方研究会

新しい働き方研究会では、少子高齢化の加速や労働者の価値観の変化、社会・政府の動向などを踏まえ、加盟単組組合員にとってもより働きやすい職場風土を醸成し、化学産業全体のさらなる発展の一助となることを目指して取り組んでいます。

2018年6月に成立しこれから施行されていく「働き方改革関連法」に関して、個々の具体的な事項(残業時間の上限規制、有休取得の義務化、勤務間インターバル制度、産業医の機能強化、フレックスタイム制の見直し、同一労働同一賃金、高度プロフェッショナル制度の創設等)について、政府動向を確認するとともに、現状の課題や対応状況の情報共有に取り組めます。

また、化学総連に集う組合員全員の現状を幅広く把握するために第1回働き方アンケートを実施しています。アンケート結果については、幹事会や地連活動を通じて役員間で共有を図り、個別労使での取り組みの充実に繋げるとともに、共通課題の改善や個々人の働き方改革の動機づけに資する勉強会・研修会を検討していきます。併せて、労働ならびに労働者の生活に係る法制度の改正等に対して、労働者の立場からパブコメをはじめとした外部への提言活動を積極的に進めます。

人と技術の未来研究会

人と技術の未来研究会では、化学産業の持続的な発展、国内における雇用確保を産業レベルで追求するという目的に対して「人」と「技術」という切り口から「未来」志向で研究を行い、政策提言や情報の共有を進めるべく活動に取り組んでいます。

資源に恵まれない日本にあって化学産業が持続的に発展していくために重要な要素は「人」です。変化の激しい昨今において企業による人材育成活動だけで対応していくことには限界があると考え、就業前教育の重要性を認識し、教育に関する政策提言活動に取り組んでいます。

また、世の中で研究が進んでいる10年20年先を見据えた新たな「技術」について、様々な形で情報収集を行い、これから化学産業として対応をしなければならない課題等について研究し、化学総連内で情報共有・知見蓄積を図ることで、各種政策立案能力の向上や、各単組における時代に合った働き方や労働条件を検討する際の一助となるような活動を進めています。

教育政策、人材育成政策、科学技術振興政策についての動向や化学産業としての課題を把握し、化学総連としての教育・人材育成政策やイノベーション政策のブラッシュアップに努め、政策の実現・前進を目指します。

地方連絡会議

地方連絡会議(以下、地連)では、加盟単組支部間の情報交換および交流を基本とし、相互理解を深めながら効率的かつ効果的な運営を展開しています。

各地連の拡大幹事会に担当役員もしくは事務局が参加し、化学総連の現況や各専門委員会・研究会の取り組みを報告することで、“より身近に感じる化学総連”に繋がるように積極的に取り組みます。

加えて、各地連の皆さんと幹事会メンバーとの意見交換の場を順次設けることで、産業別労働組合としての役割と活動の理解度強化に努めます。

また、加盟単組支部だけではなく関係企業労組の皆さんにも参画いただくことを進めるとともに、限られた加盟単組支部での運営している地連には隣接地連との合同幹事会やブロック交流会等を通じて、加盟単組支部間の課題共有と交流が深められるよう取り組みます。

さらに、地域課題をテーマに地方行政等との政策交流会を開催し、地域特有の課題について官民が認識を共有して改善が進められる産業政策活動を推進していきます。

新しい働き方研究会 メンバー



委員長：大熊 隆史(積水化学労組)中央右
副委員長：竹内 輝紀(日本ゼオン労組)中央左
委員：峯岸 一(信越化学労組)右
委員：松岡 秀樹(J S R労組)左

人と技術の未来研究会 メンバー



委員長：吉井 勝之(三菱ケミカル労組)中央右
副委員長：木村 和仁(ダイセル労組)中央左
委員：吉崎 隆弘(日信化学労組)右
委員：吉田 淳二(カネカ労組)左

地方連絡会議 担当役員



担当役員：吉富 健治(宇部興産労組)右
担当役員：津田 耕二(三井化学労組)左

化学総連活動報告

【第90回調査担当者会議】

日 時 2018年11月6日(火)～7日(水)
場 所 日本環境設計株式会社 北九州響灘工場
小倉リーセントホテル
参加人数 22名

施設見学では日本環境設計株式会社の北九州響灘工場を訪問しました。この工場では携帯電話リサイクル事業と再生ポリエステル製造事業を手掛けており、ゴミの再資源化に「技術」と「仕組み」の両方から取り組んでいました。会議では調査担当者の業務内容の説明、オプション調査結果の報告を行い、質疑応答含めて良い情報交換となりました。



【第40回支部役員研修会】

日 時 2018年11月9日(金)～10日(土)
場 所 造幣局さいたま支局
浦和ワシントンホテル
参加人数 55名

第40回目の支部役員研修会を東日本で開催しました。施設見学では自ら行く機会が少ない造幣局を訪問しました。原料から硬貨ができるまでの工程や硬貨の変遷などを見学し、参加者の皆さんは非常に興味を持って担当者の説明に耳を傾けていました。基調講演では化学総連の基本姿勢、活動方針、各委員会・研究会の取り組み、平成31年度税制改正要望について、津田副会長より講演いただきました。分科会では10グループに分かれ、各単組の活動内容について情報交換を行い、最後には各班でユニークな活動について発表会を実施しました。



【2019年度 第1回書記長・事務局長会議】



日 時 2018年11月16日(金)

場 所 化学総連 会議室

参加人数 20名

働き方改革関連法への対応が労使共通の課題となっていることから、働き方改革に関する勉強会および情報交換を実施しました。勉強会では厚生労働省労働基準局労働条件政策課の高橋課長補佐に講演いただき、具体的な事例に関する質疑応答を通じてさらに理解を深めました。情報交換では、各単組における対応方針や対応状況について情報共有ならびに質疑応答を行い、各単組での取り組みの一助に繋げました。

【第41回支部役員研修会】

第41回目の支部役員研修会を西日本で実施しました。施設見学ではコカ・コーラ社製品の製造・販売を行うコカ・コーラボトラーズジャパンを訪問しました。安全・安心な製品を製造するだけでなく、世界中で同じ品質を提供するための工夫が随所に見受けられました。誰もがよく知る製品を製造している工場のため、参加者の皆さんは非常に熱心に見学していました。基調講演と分科会は、東日本で開催した支部役員研修会と同様に実施しました。

本研修会は、参加した方々から非常に良い交流の場になったと毎年好評をいただいております。本研修会に限らず今後も交流の機会を提供していきますので、より多くの皆さんのご参加をお待ちしております。



日 時 2018年11月22日(木)～23日(金)

場 所 コカ・コーラボトラーズジャパン
京都工場

ホテルマイステイズ新大阪

参加人数 38名

化学総連活動報告

【第42回幹部研修会】

幹部研修会

日 時 2019年1月17日(木)～18日(金)

場 所 ステーションホテル小倉

参加人数 111名



「これからの働く地図」
東京大学社会科学研究所教授 玄田 有史氏

今回の研修会は講師を2名お招きして2つの特別講演と会長講演を実施しました。

1つ目の特別講演では、北九州市環境局環境国際経済部温暖化対策課の樋口雅之氏より「北九州市の温暖化対策について」と題して講演いただきました。公害克服の技術と経験を生かし、環境国際協力や循環型社会づくりを進める北九州市では、再生可能エネルギー・次世代自動車の普及促進や市民の啓発活動にも力を入れており、SDGsや低炭素社会の実現には、企業と市民と自治体が一体となって取り組んでいく必要があると感じました。

2つ目の特別講演では、東京大学社会科学研究所教授の玄田有史氏より「これからの働く地図」と題して講演いただきました。誰もがよく知る昔話を例に出して、不確かなことが多い現代では、桃太郎的な生き方(課題設定力、業務遂行力、リーダーシップ等)だけではなく、浦島太郎的な生き方(自分なりにベストを尽くす、結果に後悔しない等)がより重要となり、今後は桃太郎と浦島太郎の二刀流の浦島桃太郎を目指していくことも必要だと述べられました。また、Strong Ties/Weak Ties(強い絆/弱い絆)の理論についてもご紹介いただきました。強い絆は安心や幸福を与え、弱い絆は気付きや希望を与えるとのこと。職場や年齢を越えて交流を図れる労働組合には、強い絆と弱い絆の両方を育む場として機能することを期待していると述べられました。従来の日本的な働き方が大きく揺らいでいる現在、今までの働き方を見つめ直してこれからの働き方をよりよい方向に変えていくためのヒントを得ることができました。



会長講演は、化学総連の寺前会長により「化学総連の取り組みと今後の課題について」と題し、2018年の活動の振り返りを行い、2019年春季労使交渉に向けた化学総連としての取り組みの考え方と世界・日本の各諸情勢や企業業績についてご説明いただき、考え方や情報の共有化を図りました。

2019年度 第1回地連代表者会議

日 時 2019年1月17日(木)

場 所 ステーションホテル小倉

参加人数 28名



各地連の幹事会等で議論いただいたゴミ拾いのボランティア活動に関する内容共有化や40周年記念行事のお願い、ブロック交流会の開催について、横後事務局長より説明し、周知を図りました。また、40周年記念行事については神奈川地連の企画をご紹介します、他地連の参考に繋げました。